

## 笑顔を運ぶ白いご飯

朝霞市立朝霞第一小学校 六年  
須藤 里彩

私はご飯を食べることが大好き。特に、炊きたての白いご飯は食べる人たちを笑顔にしてくれる魔法がかかっている。私たちはそんなご飯を毎日当たり前のように食べることができているが、ご飯を作ると言うことがどれほど大変なことか私は知らなかった。家では炊飯器のスイッチを押せば朝起きると必ずほかのご飯ができています。そんな毎日を通しているうちに、ご飯が食べられると言うありがたさが薄れてしまった。しかし、二つの経験を通してご飯を作る大変さ・ご飯を食べるありがたさを改めて感じるこ

とができた。

三年生の頃私が住んでいる市で田植え体験の講座が開かれた。初めての体験だったのでまっすぐ埋めたつもりでも曲がってしまうし足元がねちよねちよで歩きづらくて、田植えってこんなに大変なんだなあとというのが率直な感想だった。そして、この夏家族で防災キャンプに出掛けた。地震など災害が起きるときにどう対応したらいいかを考えるためのキャンプ。今年の春熊本で大きな地震が起こり、夏休みの今私の住む埼玉でも小さい地震が何度か起こったからだ。また、熊本で被害にあった人たちに、自衛隊の人やボランティアの人たちがご飯を炊き、水の配給をしている姿がテレビに映っていた。家族でその状況を見ていた時に、ご飯を食べている人々が笑顔になっていることに気がついた。ただご飯を食べているだけなのにそんなにも笑顔になれるのだろうかと思議に思ったのを今でもはっきり覚えている。その時、ご飯を久しぶりに食べたからかなあとかご飯だけであんなに笑顔になれるのかなあとも思った。だから、自分が被災者の気持ちになってご飯を食べてみたいと思ったのだ。防災キャンプに出掛けた日の朝ご飯は、カップラーメンですませ昼ご飯に自分たちでご飯を炊いた。近くにあった川でお米を研ぎお父さんがご飯を炊いてくれた。持っていったものは少なかったので昼食のおかずは、トマトだけで自分たちで作ったご飯もたった少しだったけれど、満腹感を得ることができた。私たち家族が防災キャンプに出かけたのは、災害が起こってからどの様に過ごしていけばいいのかを考えるために出かけたつもりだった。けれど、私がこのキャンプで一番感じ、勉強になった事は、『ご飯を食べられることがどれだけありがたいことなのか』という事だ。身近に食べているご飯、どんな状況であってもお米が食べたくなくなるということ。それを改めて実感できた。

私は防災キャンプを通じてご飯を食べられることの大切さを知ることができた。だから、お米という存在が私たちの生活にいかに重要か、私は改めて感じる事ができたのだ。だからお米を作っている人に感謝の気持ちとして心をこめて『いただきます』を言いたい。私たちの食卓にお米という食べ物を与えてくれてありがとう。そして、いただきます。